

平成19年7月26日国指定



初代藩主丹羽光重が寛永20年(1643)二本松に入城した際に大手門の築造を望みましたが、藩の財政状況等により実現できなかったと伝えられています。9代藩主丹羽長富の代に傑物家老として知られた丹羽久米介貴明の構想によって、歴代藩主されました。しかし、



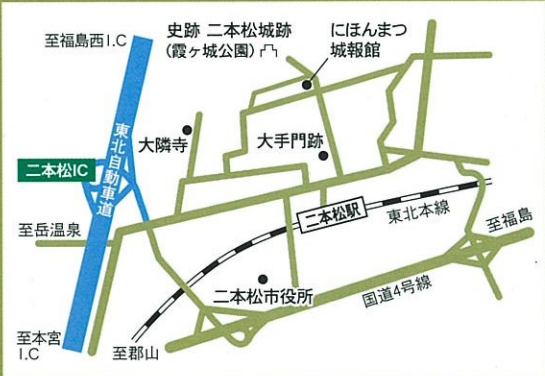
「二本松城之図」伝 大原文林筆

想によって、歴代藩主の悲願であった大手門がようやく築造されました。しかし、慶応4年(1868)戊辰戦争敗戦後、まもなく取り壊されました。

現在、築造年代の明確な「亀甲積み崩し」技法という貴重な石垣が、往事の姿をとどめています。



史跡「旧二本松藩戒石銘碑」昭和10年12月24日国指定



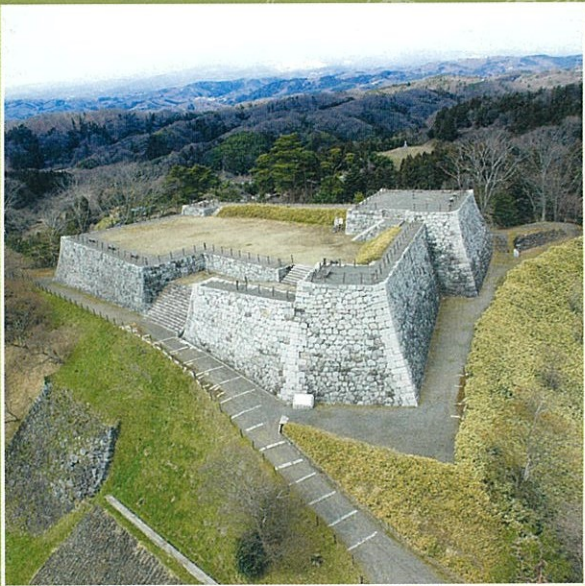
○交通のご案内○

JR利用の場合・東京～二本松駅(約2時間)
東北新幹線：東京駅→郡山駅、
東北本線に乗換え：郡山駅→二本松駅
二本松駅から徒歩約20分

お車利用の場合・東京方面から(約3時間)
東北自動車道：浦和IC→二本松IC
・仙台方面から(約1時間)
東北自動車道：仙台南IC→二本松IC
二本松ICから約5分

二本松市教育委員会

〒964-8601 福島県二本松市金色403番地1
Tel 0243-55-5154 fax 0243-22-3147
E-mail : bunkashinko@city.nihonmatsu.lg.jp



史跡

二本松城跡

Nihonmatsu Castle was constructed to take advantage of rough terrain surrounded by mountains reaching 345 meters above sea level, and the castle contains both medieval and modern ruins. Although there are various views on the subject, it is said that Mitsuyasu Hatakeyama built the castle on this land in 1414.

After the destruction of the Hatakeyama clan in 1585 by Masamune Date, lordship of Nihonmatsu Castle changed hands several times, being held by Date, Gamon, Utsugi, Matsushita, and Kato. Then in 1643, Mitsushige Nawa entered the castle to become lord of Nihonmatsu, which was worth 100,700 koku of rice at that time. After that, the castle was the official residence of the Nawa family until the Meiji Restoration.

Since both medieval and modern ruins can be seen here, people can easily see how the castle changed over time. Thus it is one of the famous ruins in Tohoku Japan.

(1 koku : It is said to be the amount needed to feed one man for one year. The wealth of a castle and the surrounding countryside was measured in koku.)

この地に城を築いたといわれています。

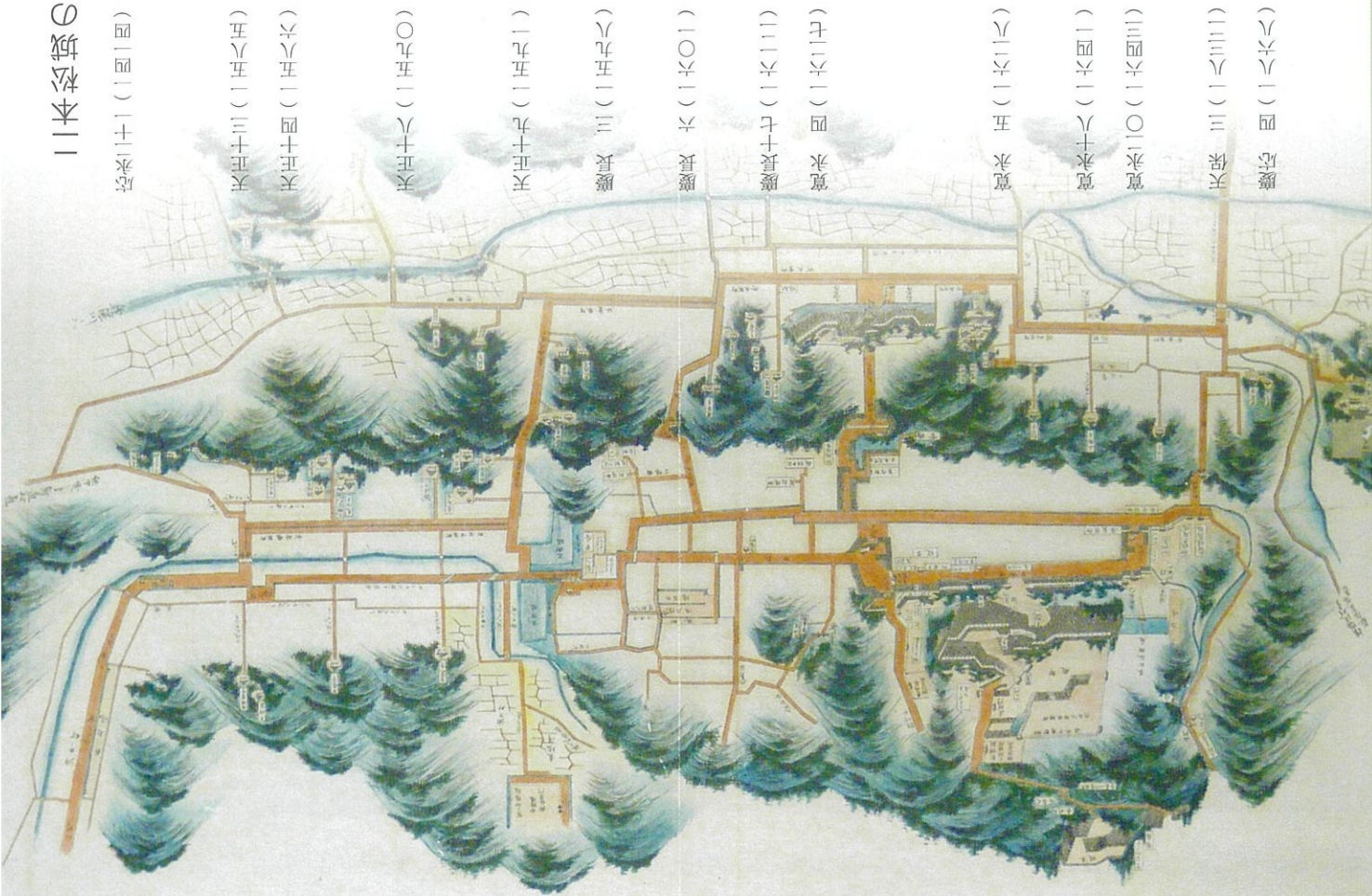
天正14年(1586)に伊達政宗が畠山氏を滅ぼすと、伊達・蒲生・上杉・松下・加藤氏と城主がかわり、寛永20年(1643)に丹羽光重が二本松藩10万700石で入城し、城内の建造物や石垣等の新築・修築を行うとともに城下町整備を行い、以後、丹羽氏の居城として明治維新を迎えました。

発掘調査によって、本丸直下の平場で畠山氏時代の火災廃棄土坑や、近世会津支城時代の石垣が発見され、また中世城館から近世城郭への大規模な改修が寛永4～20年(1627～1643)の加藤氏時代に行われていたことも判明しました。

二本松城跡は中世城館と近世城郭が同一箇所で見られ、かつての愛宕がよくわかり、当時の政治及び築城技術を知ることができる東北地方を代表する城跡です。

二本松城跡

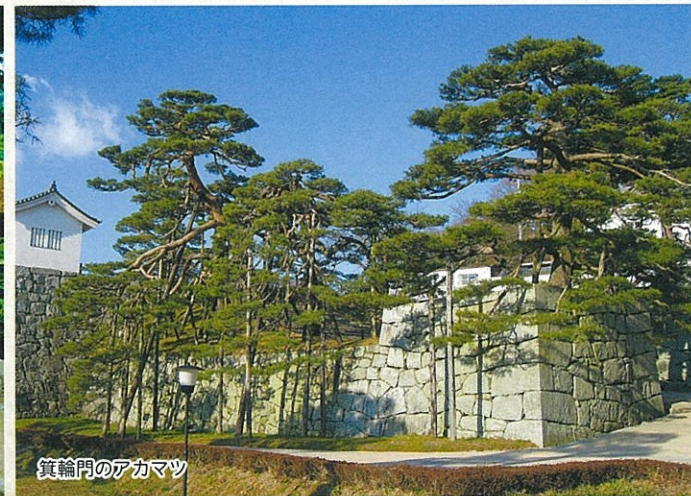
平成19年7月26日国指定



二本松城の歴史

慶應	四二八	名、ちう、三十七歳の少年に隊を率ひて、	七
天保	三二二	幕府の許を得て、城下の久保に門を築造する。	七
寛永	一〇二六	八月二日、丹羽重光が百七十石の河白より入る。	七
寛永	一〇二六	幕府領となり、相馬義胤が在番として、河白派遣せられる。	七
寛永	一〇二六	加藤明利が死去して以後、二本松松領は代官支配で記さる。	七
寛永	一〇二六	を与えられ。	七
寛永	一〇二六	三春城から、加藤明利が入封、安達郡三ヶ村(村)	七
寛永	一〇二六	に移封する。	七
寛永	一〇二六	死去、嫡子長綱が襲封する。翌年一月、三春城	七
寛永	一〇二六	本松松領、石五万、安達郡四ヶ村(村)と、重綱が	七
寛永	一〇二六	加藤明利が会津津城の主となり、明・嘉・重綱が二	七
寛永	一〇二六	藩生忠郷が死去する。	七
寛永	一〇二六	藩生秀行が死去して、嫡子子孫が襲封する。	七
寛永	一〇二六	藩生秀行が会津津城の主となり、二本松松城を配する。	七
寛永	一〇二六	上杉景勝が会津津城に封入に代は、二本松松城に	七
寛永	一〇二六	参勤、親東(城)と秋山(城)を配する。	七
寛永	一〇二六	豊臣親東(城)と秋山(城)を配する。	七
寛永	一〇二六	入る。同じ頃、康家も入城する。	七
寛永	一〇二六	豊臣秀吉が奥羽仕置の指合を受け、二本松松城に	七
寛永	一〇二六	が命ぜられる。二年、檢地奉行石田三成、長野政	七
寛永	一〇二六	豊臣秀吉が会津津城に封入に代は、二本松松城を	七
寛永	一〇二六	伊達成美が代官となり、二本松松城の整備に	七
寛永	一〇二六	政宗が二本松松城に封入に代は、二本松松城を	七
寛永	一〇二六	二本松松城を城、島田義興(綱)が津に逃れる。	七
寛永	一〇二六	栗ノ須(城)と、伊達宗孝が豊後・豊前・豊後・豊前	七
寛永	一〇二六	※繁城(城)は、吉吉年間(一四四一—一四四四)の	七
寛永	一〇二六	二本松松城に移す。	七
寛永	一〇二六	島田氏代官、田沼・白旗・泰・田沼・白旗・泰・田沼・	七

二本松城跡案内図



至にほんまつ城報館

© 城内設置サインのうち、緑色は丹羽氏時代の遺構を、青色はそれ以前を示す。